

## 学校読書活動の取組【城陽市立東城陽中学校】

### 1 実践テーマ

「生徒達の主体的な学びを支え、健全な教養の育成に努める図書館を目指して」  
～読書センター、学習センターの充実・推進に関する取組を工夫する～

### 2 学校の概況

本校は城陽市東部の丘陵地に位置し、緑豊かな自然環境の中、落ち着いた生活環境が保たれている。個々の生活や学習に伸びやかに取り組む生徒が多い。また、保護者や地域住民の教育に対する関心も高く、協力的である。

生徒は落ち着いた学校生活を送っており、礼儀正しさや責任感など一定の社会性を身に付けている。学習に対しても意欲的で課題に対して積極的に取り組む姿勢が見られる。

本年度の在籍生徒数は 406 名、特別支援学級 2 学級を含む 14 学級規模の学校である。

### 3 実践内容

「読書センター、学習センターの充実・推進に関する取組の工夫」

#### (1) 日常的な取組

##### ア 朝の読書

- ・火曜日から金曜日の 8 時 35 分から 45 分まで、全校一斉の「朝の読書」の時間を設定。どのクラスも集中して読書に取り組んでいる。

##### イ 図書室の開館

- ・火曜日から木曜日までの昼休み、金曜日の昼休みまでの毎休憩時間の開館を実施。見やすい展示、新着図書コーナー・人気本コーナーなど配架の工夫を行った。



- ・学級文庫への貸出 各クラスに 40 冊ずつ貸し出しているが、それ以外にも生徒が利用できるようにコーナーを設置している。

##### ウ 図書委員会の活動

- ・昼休みに生徒が貸出・返却の手続きを行っている。
- ・クラスの学級文庫や市立図書館からの巡回図書を管理する。



## (2) 読書活動の企画・運営に関する取組

選書会、読書アンケート、読書週間の取組提案等を実施した。

### ア 選書会

学校司書や図書委員が選出した候補の本から、クラスで投票し、購入する本を決定する取組を行った。

この本が面白そうなど、生徒同士で話し合う様子も見られ本の話作りへのきっかけとなっている。



### イ 読書アンケート

来館回数やよく借りられている本、図書館に対する要望、購入希望などを調査。

図書委員が集計を行った。

### ウ 読書週間の取組

読書週間にあわせてクラス全員に「私の好きな主人公～この主人公推しです！」の取組を実施した。本のタイトルや好きな理由などを記入し交流の場となった。



## (3) 学校図書館の授業利用について

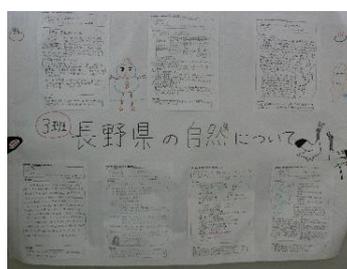
本年度の「学習センター」としての図書館の利用状況は以下の通りである。

- 4月 図書館オリエンテーション（1年生国語科 1時間）
- 5月 職業調べ「1年仕事図鑑」を作成しよう。（1年生総合の授業 2時間）
- 7月 読書感想文に向けて「課題図書」の紹介等（2年生国語科 1時間）
- 12月 自然体験学習事前学習（2年生総合の授業 2時間）
- 1月 戦国武将の新聞作成（1年生社会科 4時間）
- 1月 朗読ボランティア体験（1年生総合の授業 2時間）
- 2月 仮想旅行の英作文（1年生英語 2時間）

\* これ以外にも日常的に辞書の利用指導は国語科、英語科で実施。



・オリエンテーション



・自然体験学習



・戦国武将の新聞作成

## (4) 外部との連携

### ア 城陽市立図書館との連携

- ・巡回図書の貸出利用→各クラスの学級文庫として活用。学期ごとに配布・回収。図書委員が管理する。

- ・ 「読書ラリー」の取組→市立図書館選定のブックリスト等から選んだ本を読む。
- ・ 学校貸出制度の利用→学校図書館だけでは不足する資料を貸出援助。

#### イ 府立図書館との連携

- ・ 本年度は1, 2年生の「総合の時間」において「学校支援セット貸出」を利用した。  
「職業ガイド」(1年生) 「日本の地理」「スポーツ」(2年生)

#### (5) 読み聞かせボランティアとの連携

- ・ 校区の2小学校のボランティアの方に年8回来校していただき、1年生対象に「朝の読書」の時間に読み聞かせを実施している。生徒達はおおむね静かに耳を傾けている。



#### (6) 家庭との連携

- ・ 「図書館便り」を月1回程度発行し、校内でのそれぞれの取組の内容や新着本の紹介や啓発活動を行っている。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 本年度も新入生対象の「オリエンテーション」を行ったところ、例年以上に来館者が多く、一時的なもので終わらず、継続して利用する姿が見られた。
- ・ 来館者数は毎年増加傾向であるが、今年は各学年とも利用者が多く貸出冊数も大幅に増加した。朝の読書のために借りていく生徒や友達などのおすすめ本を借りていく生徒の姿も見られた。また、オリエンテーションや授業での利用時に図書館の蔵書に触れ、開館時に借りにくるといった生徒も増えた。
- ・ 来館回数が0回という生徒が昨年度よりかなり減り、6回以上の来館者が1, 2年生で増加した。ほぼ毎回来館する生徒もいる。
- ・ 「学習センター」としての利用指導において、昨年度よりも授業での図書館使用が増え、教員の中からも「〇〇のために本を使いたい。」や「本が足りないので、市立図書館の本も利用させてもらいたい。」等の要望がでるようになった。教員の要望に応えるべく、学校司書の方との連携を密に取り組みすることができた。
- ・ 山城教育局主催のポップカードコンテストに2名、第65回読書感想文京都府コンクールに1名入選した。

## (2) 課題

- ・ 開館時間を増やしてほしいという要望は生徒から毎年あるが、担当教師が授業等でなかなか指導に付けず、現状にとどまっている。
- ・ 校内研修については時間や準備等の課題から、実施できていないのが現状である。授業での利用や日常的な利用の方法に関しても、もっと教員に周知していくという意味で教員に対する利用指導を兼ねた研修を行ってもよいかもしれない。
- ・ 城陽市立図書館や府立図書館との連携については、本年度一歩前進したが、まだまだ十分とは言えない。今後、計画的な利用ができるように年度当初に本年度の実績や利用方法についての周知が必要である。
- ・ 来館者を増加させるための取組については、今後も手立てを考えていく必要がある。
- ・ 読書週間の取組等については、昨年度同様の取組に終始した感が強く、目新しさには欠けた。生徒にとって魅力的な取組の開発に努力すべきである。